

■インド：政府、農村部での太陽光の活用促進に 2.4 兆円を拠出

2018年6月5日付の報道によると、インド政府は2018年7月から、農村部での太陽光発電の活用を促進する「農家のエネルギー・セキュリティ&向上運動（KUSUM）」に着手する。政府予算は1兆4,000億ルピー（約2兆4,000億円）。主な内容は、(1) 農村への太陽光パネル（500～2,000kW）の設置（計1,000万kW）、(2) 系統に接続していない農家向けに、太陽光を電源とするオフグリッドの灌漑ポンプの設置（175万台）、(3) 既存の灌漑ポンプ電源の太陽光への切り替え（100万台）、および余剰電力の売電を可能とすること、(4) 政府の設置する灌漑用・飲料用井戸での太陽光の活用、である。灌漑ポンプの電源を太陽光に切り替えることで、農家の電気代の削減や新たな収入源とするとしている。まずは、マディヤプラデシュ州とラジャスタン州の2州で実施される予定である。